

令和7年度三豊市総合教育会議の開催結果概要

【日 時】 令和7年12月22日（月）13時30分～15時03分

【場 所】 三豊市危機管理センター2階 201会議室

【出席者】

(1) 構成員

職名		氏名
市長		山下 昭史
教育委員会	教育長	大原 一仁
	委員	野田 雄一郎
	委員	須山 貴司
	委員	金山 郁子
	委員	村上 輝司

(2) 事務局

職名		氏名	
教育委員会事務局	部長		開口 陽子
	教育総務課	課長	三好 智支
	学校教育課	課長	内田 さなえ
	学校給食課	課長	小野 敬二
	生涯学習課	課長	真鍋 裕亮
	スポーツ振興課	課長	高橋 秀行
	教育総務課	主事	櫛田 明希

【傍聴者】 1名

【会議次第】 1 開会

2 市長挨拶

3 教育長挨拶

4 協議事項

(1) 学校教育について

・子どもたちの学びにつながる「教職員の意識改革」と「働き方改革」

(2) 放課後改革について

・今後の課題と解決に向けた取り組みについて

(3) その他

5 閉会

【議事要旨】

発言者	内容
進行	<p>これより令和7年度総合教育会議を開催いたします。12月に入りまして、何かとお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。なお、本日の会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項により公開することとなっております。傍聴1名の方を受け付けておりますので、ご報告させていただきます。</p> <p>まず、はじめに三豊市長 山下 昭史よりご挨拶申し上げます。</p>
山下市長	<p>皆さま、こんにちは。本日は、令和7年度総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。今年も残り1週間で仕事納めという本当に押し迫ったタイミングでお集まりいただき、皆さまご多忙中と思いますが、改めて三豊市の教育行政に関しまして様々な意見をお聞きし、またそれを施策に生かしていくために皆さまとこういった機会を設けさせていただいたことに感謝を申し上げたいと思います。三豊市においては、全ての子どもがいきいきと学び、心豊かに成長できる環境を提供することが最も大切な使命であると思っております。未来を創る力を育む根本的な要素、そして地域社会全体でその支援を行うことが必要不可欠だと思っております。今後も子どもたち一人一人が夢を持って、そして未来へ向かって進んでいく、そういう環境を我々が作っていく、できるだけ多くの選択肢を用意していく、そういった取り組みをやってまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いできたらと思います。今回は教職員の意識改革と働き方改革をテーマに進めてまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p>
進行	<p>続きまして、三豊市教育委員会教育長 大原 一仁よりご挨拶申し上げます。</p>
大原教育長	<p>皆さま、こんにちは。本日は三豊市総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。今、市長の方からも話がありましたが、本日は2つの大きなテーマがあります。このテーマはいずれも子どもたちの学びと成長に直結するもので本当に喫緊の重要な課題と認識しております。まず、「教職員の意識改革」と「働き方改革」について、教育現場における教職員の働き方改革は、教師自身の働き方を見直すことにとどまらず、子どもたちにとってより良い教育環境を提供するために不可欠な課題です。教師が心身ともに健やかで、意欲的に教育活動に取り組むことができるよう、職場環境の改善は非常に重要です。三豊市では、これまでも教職員の業務負担軽減を目指した取り組みを行ってきました。ICTの積極的な活用や、勤務時間の適正化、子どもたちと教員が向き合う時間を最大限確保できるよう努めていますが、</p>

進行	<p>多くの課題が残っていると考えております。それから「放課後改革」については、一定の成果は上がっていると自負しておりますが、今後子どもたちの多様なニーズに応えると同時に課題となっている人材・財源・移動手手段の確保等の大きな課題がまだ完全には解決できていないような状況かなと思っています。本日の会議では、これらの課題について、皆さまと共に意見を交わし、三豊市の教育の未来に向けた具体的な方策を見出していければと思います。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
山下市長	<p>ありがとうございました。協議事項に入る前に、本日の会議の議長の選任をお願いしたいと思います。この会議の議長は、会議の内容によって決めることになっております。市長、どのようにいたしましょうか。</p>
大原教育長	<p>分かりました。では、私の方で議長を務めさせていただきます。</p>
進行	<p>それでは、今回の議長に教育長が選任されましたので、これよりの議事進行については、教育長よりお願いいたします。</p>
大原教育長	<p>議長に選任されましたので、ここからの議事については私が進行させていただきます。それでは、会議次第に沿って議事を進行してまいります。早速ですが、協議事項1「学校教育について－子どもたちの学びにつながる「教職員の意識改革」と「働き方改革」－」についてです。まず教育委員会事務局より説明をお願いします。</p>
学校教育課 内田課長	<p>資料に基づき説明（略）</p>
大原教育長	<p>ありがとうございました。教育委員会事務局からの説明が終わりましたが、本議題について市長のお考えはいかがでしょうか。</p>
山下市長	<p>協議事項1に関しまして、働き方改革というのが勘違いして伝わっているのではないかと危惧しています。いわゆる労働時間や過労死ラインは当然守っていかねばならないですが、そういったものをいわゆる時間的なものだけで区切ってしまえる職種とできない職種というのがあって、その中に1つ、教員が役割としてあります。現在の学校は過渡期にあり、デジタルなどは生徒の方が詳しくたりするジャンルもあります。部活動の地域移行もそうですが、結局学校の存在そのものが、昭和の時代からずいぶん変わってき</p>

	<p>ています。それに伴って教員の方々の生徒への向き合い方とか、学校での自分の立ち位置が、すごく曖昧になってきているのではないかと思います。そこに働き方改革が加わってきて、教員というのは学びの専門家である意識がなんとなくぼんやりしてきているように感じます。いわゆる学習指導要領の通りにやっていけばいいとか指導要領の進行状況を守っておけばクリアみたいな感じが先生方の中にあるのではないかと時々思います。本当に意識改革として、これから教員の意識としてどういうものを持っていくべきなのかが、ものすごく不安であり、疑問に思うことが多々あります。教員の職責や学びの専門家たる所以というのは本当に何だろうと思ひ、突き詰めたいなど思っています。</p>
大原教育長	<p>ありがとうございました。それでは教育委員の皆さまのご意見をお願いします。</p>
須山委員	<p>市長がおっしゃったように時間的な労務と職場から離れて、やっぱり頭の中に残っていることが人間ですからあると思います。特に学校の先生方はまだ気になることがいくつかあって、それに対するために夢の中でその対応を考えたり、大変な仕事だと思ひます。体力的にも大変しんどいことが多いと思ひますので、睡眠時間になるべく取れるような体制をとれるようにしてほしいです。また、人材の確保が難しいと思ひますが、教員の方々のこれからの仕事の中で対応できる体力と頭の切り替えですかね。そういう人材をなかなか発見するもの大変な話だと思ひますが、県の方とも調整していただいて、採用の時にこれからの教育の施策に対応できるように頭の切り替えができる優秀な人材の確保をしていただきたいと思ひます。学校の教師になりたいという方々が大幅減っていて大変難しそうですが、採用時期の見直しなどいろいろ試行錯誤をしていただけたらと思ひます。</p>
大原教育長	<p>他はいかがでしょうか。</p>
金山委員	<p>今、私は高校生と中学生の子どもがいます、子育て真っ最中のところです。中学生の娘は、担任の先生が比較的若い先生で、また学校の先生方もこの数年でとても若返ったと言ひますか、20代、30代の先生方が増えました。子どもにとっては年齢が近いということもあって、すごく話しやすくて親しみやすいと喜んでいますが、保護者としては、それもいいと思ひますが、やっぱり深刻な相談事がある場合に果たして親身になって的確に相談に応じてくれるのかという心配は少しあります。幸ひ、私も娘に関しては深刻な悩みはないですが、同じクラスの中でも何人か不登校気味の生徒さんがいたりするなど、保護者としては学校の現場が見えない中で子どもからの報告や</p>

<p>学校教育課 内田課長</p>	<p>学校からのホーム&スクールで寄せられる情報しかないのが現状です。そこで、もう少し保護者として言いますと、先生方も忙しい中で努力をして現状を報告してくださったりしておりますが、何らかの形でわかりやすい報告をしていただきたいと思います。学校の現状ですとか子どもが通学している以外の中学校の現状ですとか、そういうことをわかりやすくしていただいて、見える化と言いますか、検討していただけたらいいのではないかなと思います。また保護者としての意見ですが、資料の9ページにありましたが、学校と教師の事務の3分類という初めて見る資料についてお聞きしたいことがあります。学校以外が担うべき業務というのは決まっているのでしょうか。</p> <p>ご質問の件につきましては、今年見直されて変わった部分がありますが、以前からこの3分類はあります。これを目指すというわけではないですが、やはり学校以外が担うべき業務というところを、学校や教育委員会で見直して、教員が本来の子どもたちに向かう時間を作り出そうというところに向けての内容になります。</p>
<p>金山委員</p>	<p>現状で、検討中ということでしょうか。</p>
<p>学校教育課 内田課長</p>	<p>三豊市の場合、先ほど4ページにありました教職員の働き方改革プランというのは昨年の10月に改定しまして、今少しずつ実施しております。もう既に出来ているところもありますが、現在進めているところです。今年この「学校と教師の業務の3分類」が出たので、なお考えていかないといけないというところはあります。</p>
<p>金山委員</p>	<p>改めて先生の大変さがよくわかりました。</p>
<p>山下市長</p>	<p>大変ですが、例えば先ほどの3分類の中で自分の担任のクラスの子が夜間に補導されたら、私の感覚では担任の先生は飛んできてくれていたような気がします。しかし、最近はそういったことをしないですね。昔は、親の代わりに怒ってくれたりしていたイメージもあります。</p> <p>先日、すごく驚いたのが三豊市内の学校でヤングケアラーのアンケートを取るといった時に、取るのはいいけどヤングケアラーがいたら、後の対処はそちらでやってくれるんだらうねという意見が出たと聞いた時に、今の教育現場ではそういう風になっているのだと感じました。いわゆる子ども家庭には教員が一切入っていない。</p>
<p>金山委員</p>	<p>そういうイメージですね。線引きをされているような感じがします。特に、コロナ禍を経て、なお継続されているような気がします。</p>

山下市長	<p>僕は教員に幻想を抱きすぎているのかもしれないですが、学校って何でしょうねと思います。先ほどの意識改革に結びつけると、教員は学校から外に出ると管轄じゃないというような感覚を受けてしまう。本当にこれでいいのかな。それが働き方改革というなら、そうなんでしょう。では、学校は何のためにあるのかと考えます。</p>
大原教育長	<p>この辺りが非常に、一番難しいところでもあります。また考えていけないといけないと思いますが、野田委員の考えをお伺いします。</p>
野田委員	<p>市長がおっしゃったように先生って何ってということだと思います。資質といますか、教えることが一番だと思います。なかでも、何を教えるかが重要です。当然、学習指導要領の内容ももちろん基本ですから大事ですが、人間を教える、人となっていく成長過程を教えるということが、教職という本当の意味での仕事ではないかと私は今でも思っています。また、働き方改革ってというのは市長がおっしゃったように時間縛りみたいな部分が先行しているから私も誤解されているように思います。例として、昔は各教科の研究会や同好会がたくさんありました。同好会と言っても勤務時間終わりに、ある教科の指導の仕方をどうやったらいいかなと集まって話し合ったりしながら、授業づくりをしていた時代もあります。そうした研究会や同好会は、ちょっと残っているところもありますが、ほとんどなくなってしまいました。また、香小研と呼ばれる香川県小学校教育研究会という組織が全県でありました。しかし、近年、あるエリアがお金を払わないといけない、時間がない等の理由から脱退しました。その後も脱退が続き、ものすごく弱体化しました。この三観地区のエリアもそういう意味で弱体化していきはしましたが、そこはしっかり残っているエリアであると思っています。何が言いたいかと言うと、子どもを教えるために自分の資質能力をどういう場で鍛えたらいいのかっていうことを考えないといけないと思っています。それを子どもたちに投げかけて、子どもたちとやり取りをしながら授業を作っていくという本来の姿っていうのを大事にしていけないといけない。多様性を子どもたちに投げかけていくというのは非常に素晴らしいことだと思いますが、やっぱり子どもの資質能力を高めるための手だてを先生たちが自分の力、今どのレベルなんだろうっていうのが分からない状態になっていきはしないかなと心配しています。昔の言い方で言うと教材研究というのを一生懸命する先生がやや減りかけているのではないかなという心配をしています。働き方改革と授業力の向上というのと、教材研究1つをとっても、ちぐはぐに捉えられているような感じがしています。</p>

<p>大原教育長</p>	<p>野田委員がおっしゃったように、例えば9ページの資料中にある授業準備は教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務という枠組みに分類されていて、これもちょっと首をひねらないといけないと感じています。授業準備が教師の負担軽減の対象になってもいいのかと、私も疑問に思っています。</p>
<p>村上委員</p>	<p>業務改革や教職員の意識改革ということで、いろいろな意見が出てきましたが、やっぱり教育というのは人格の形成に教員は寄与している唯一の職業であって崇高な使命を持ってきました。崇高なという文言が入っているのは教員だけですよね。そういった意識を今一度大事にしていって、若い教員にもやっぱり持ってもらいたいし、そのために管理職がしっかりと指導をしていく必要がありますが、管理職もいろんな業務が重なっていて厳しい面もあるので、あくまで社会全体でそういう崇高な仕事だということを後押しできるようにしていくといいと思います。3類型の中でも学校以外が担うべき業務がありますが、何かというと人材ですよ。できる人を掘り起こせるかというところを考えなければならないかなと思います。例えば、農業をしながらでも教育に対して気持ちは持っている人もいると思うので、教育行政としてそういう人を掘り起こしていくような手段を何とか見出せればと思っています。それに関して言うと「学校と教師の業務の3分類」の中に、保護者等からの過剰な苦情や不当な要求等の学校では対応が困難な事案への対応とあります。新聞記事では天理市の事例が載っていて、天理市は管理職や退職者等が体形的なシステムを作って苦情に対して対応してくれる、市教育委員会でそれをしていくことによって、病気で辞めていく先生が減っていったというような記事が載っていました。そういう先進的な事例も参考にして、ぜひ何か形にできたらいいのかなというふうに思います。職員室って子どもが「こんなんできた」とか、「良かった」と喜び合える場だと思いますが、どうしても何か暗い空気、こんなことに困っているって言うのが中心なので、そこなども変えていきたいなと切に思っています。</p>
<p>大原教育長</p>	<p>やはり一番問題になってくるのは、最初に市長がおっしゃったように教師の仕事の内容等が非常に曖昧になってきて、時代が変わってきているのに、教育現場は今まで通りでいいのかということと、それから逆に村上委員がおっしゃったような崇高な使命を持っているとか、そういうところも考えていくと、今の時代に教師はどのように働けばいいのか、どのような仕事をすればいいのかということを考えます。一方で、市長が先ほどおっしゃったヤングケアラーについて、全く学校外のことに対応していないというわけではありません。今でもやっぱり昔と同じような形で夜遅くに家庭訪問に行ったり、子どもの補導とかしております。補導については、呼び出しがあったり、子どもが補導されましたとか言うなら、夜中でも行ったりしています。ただ、</p>

若い先生方はやっぱり「それは学校の仕事ではないんじゃないか」や「教員の仕事ではないんじゃないか」と言われるので、学校の中でもすごくギャップを感じています。その辺りが校長先生方に聞くと非常に難しいという風におっしゃられます。かといって、ものすごく学習指導要領や教科の指導の充実とか、いろいろな新しいことに取り組んでいるのかといいますと、それもあんまり活発ではないし、学校と子どもとの関わりとか、保護者との関わりもものすごく希薄になってきています。この方向で本当に間違っていないのだろうかというのがちょっとありますが、ただ、やっぱりそれをあまりにも管理職とか学年主任とか年齢の上の者が押し出してしまうと、今度は若者がなかなかついてこれないというジレンマが生じています。

山下市長

状況的には、職場環境として変わらないです。働き方改革っていうのは「働かなくていいよ」改革ではないんですよ。質を落としたりダメなので、そういう意味では教員という職種がもつ職責ですよ。それを放置するような話とは少し違うんですね。野田委員や村上委員もおっしゃったように、人格形成であり、人間を育てるという職種は、本当に教員しかできないであろう職種のはずですが、そこがいわゆる民間企業のサラリーマンと同じことで比べ、同じ枠に入れようとする絶対違ってくると思います。どうしても学校って一つの学校の中だけで密室みたいな状況になってしまっていて、なんとかその学校の中だけで処理しようということになっているのだと思います。だから、それを共有できる学校同士の情報ネットワークみたいなもので、和光中学校だけで対処できなかつたら、他の学校も加わって一緒にやってみましょうとなればいいと思います。また、例えば今、探究学習が主流になってきていて、指導要領にも新しく載っていると思いますが、探究学習をするためには、やはり教員の知見とか、知識の広さというものが問われていて、先ほど村上委員がおっしゃったように、地域でそういう教育・学びができる人たちがおそらくいて、そういった人との接点も必要になってくるのではないかなと思います。それを考えると、学校って何なんだとなります。実際に三豊中学校があるのでややこしいですが、例えば三豊市立三豊中学校というように1つの中学校でいいのではないかと思います。別にそれは統合するとかではなく、情報としての一つの組織であれば、もうちょっと解決方法とか、いろんな取り組みができるのではないかと思います。

大原教育長

金山委員がおっしゃった、学校がどんなことをしているかとか、いろんなことが見えない、分かりにくいというのは確かにあると思います。学校というのは私も今でも、アウトソーシングしたり人に頼ったり、いろんなものをするのが苦手な組織だとやっぱり思います。頼るとか外へ仕事を出すということがものすごく恥ずかしいというか、自分たちができないから頼るみたい

な感じがありますが、そこら辺を変えていく必要があるかなと思います。須山委員がおっしゃった、なり手不足のことについては、市議会でも答弁しましたが、民間の調査会社がいろいろ将来なりたい職業ランキングについて調べた時に、小学生は女子しか出てきてなかったと思いますが、女子は本当に下位にランクインしています。ただ中学生になってくると結構上に上がって、高校生ぐらいになると男女とも教員がランキング3位とかに出てきます。でも現実には教員になっていない人が多いです。ここら辺が今の世の中の状況を反映しているかなと思います。やりがいのある仕事というのは、子ども達もある程度の現実を突きつけられるぐらいの年代になってくると感じていると思いますが、自分になるかと言われると、テレビであれだけはじめが報道されたり、教員がブラックブラックと言われたら、やはりその辺りが非常に難しいと感じています。崇高な使命というのを強調しすぎても、おそろくなり手が少ないだろうと思います。

野田委員

三豊市の教育大綱にもあるように、子どももちろんそうですが、先生・大人も夢を抱くことが重要だと思います。言い過ぎかもしれませんが大人は夢を抱いていない傾向があるのではないかなと思います。若い先生に限定して言うと、その先生たちが教員になる時にどんな夢とか希望を持っていたのかというのはすごく大事なところです。教育長がおっしゃったように高校生はそういう夢や希望はきつとあるから、そういう職種を選択しようとしています。実際に入ってきた先生たちが保護者対応や地域対応、先生や子どもたちの関係の中でだんだん夢や希望が縮小されている部分があるように思います。それを打ち破ろうとする先輩たちが関わらないといけないかなと思います。あるいは他校の先輩たちが関わってくるとか柔軟な動きというのを学校間でやらなければ乗り越えにくいのではないかなと思います。若い先生同士でいくらやっても、結局質の向上に繋がっていないと思うので、その辺がこれから市内の学校で人事交流ではなく、普段の交流といいますか行き来できる環境づくりというのは大事ではないかなと思ったりします。そうすると少しでも、こういうときはこうしたらいいのかといったように柔軟に対応できる技術が身につくのではないかなと思います。授業も生徒指導もそこそこ、人間関係作りもそこそこ、というレベルを打ち破っていく、夢を抱かせる働きかけというのは大事ではないかなと思います。

山下市長

コミュニケーションの取り方ってというか、明らかに世代間で違います。若い先生とベテラン先生のコミュニケーションが取れるように対策をすればいいんでしょうけど、ベテランからすれば飲みに行こうぜみたいな話で言いますが、若い先生からはそれは勘弁してくださいみたいな世界です。だからベテランの先生方も世代間でコミュニケーションの取り方が変わっている

野田委員	<p>ということを書いていないと、自分の経験値や経験則だけで、コミュニケーションを取っていくと、結局逆効果になっていたりして。若い先生も仕事をいかに楽しく、やりがいがあるようにするにはどうしたらいいかということを書いて聞けばいいか、そういうことも分からないまま、自分でやってしまう。そこが、お互いのコミュニケーションの方法が全く折り合わない状況のままに進んでいるようにしか思えない時があります。申し訳ないですが、飲みニケーションは若い方たちには通用しないです。</p> <p>先ほど、お話したと繋がるのですが、そういう場が同好会であったり、研究会の組織であったりします。目的が同じで迫り方が全然違う、そういう人たちが集まってきたらお互いに理解しやすくなるので、交流というかコミュニケーションも図りやすくなります。そういう組織を本当は先生たちから立ち上げていかないと意味がないです。三豊市には同学年研究会というものがあり、同じ学年の子どもたちを教えている先生たちが集まっている会だっただと思いますが、そうではなくて教科と教科外で何かしらのつながりみたいな研究会が必要だと思います。ただ出張抑制もかかっているんで、簡単にはできないと思います。</p>
大原教育長	<p>結局削減です。今まで 100 あったのなら、それを 80 にしましょうとかいって、この会はいりません、この会もいりませんか、この会はオンラインにしましょうという形にシフトしています。</p>
山下市長	<p>極端ですねよ。皆さんが理解している働き方改革は、「働かなくていいよ」改革ですよ。自分の本質的な職責・職務を果たすために必要なものであっても、それを排除する。私は、アイデアは移動距離に比例すると思っています。いろんな人に会うことによって、その知見が広がったりアイデアが生まれたりしますが、それは今、お金がかかるから「悪」らしいです。行革の時にお金を使う＝悪というような考えが広まりました。日本人らしいと感じたのは、本質を見ずに表面だけを見て、この金額はダメじゃないかと上の者から言われたら萎縮しますよ。ここで失われている価値は大きいはずなのに、出張費がかかるなどの一方的な誤解によって、その機会がなくなっています。結局、誰が一番被害を受けるのかを考えないとイケません。</p>
大原教育長	<p>教員の資質・能力を高めるための研修が負担になるとか、授業準備が負担になるって言われたら本当に何のために教員をしているんだというふうに私たちは思います。この協議事項をまとめることはできませんが、今考えているのはやっぱり三豊市で夜間中学やバカロレア教育、放課後改革とかに取り組んでいますが、最初に市長もおっしゃったように、学習指導要領みたい</p>

<p>スポーツ振興課 高橋課長</p>	<p>なものに頼って、それだけに何もかも任している、自分たちで考えなくていいのかというのは確かに大きい課題かなと思います。ただ、どうやって教員の意識改革を図っていくのかについては、なかなか難しいなというような印象だったかなと思います。これは今後とも定期的な教育委員会の中でもいろいろ考えていきたいなと思っています。</p> <p>次の議題に移りたいと思います。続いては協議事項2「放課後改革についてー今後の課題と解決に向けた取り組みについてー」です。協議事項1と同じように、教育委員会事務局より説明をお願いします。</p> <p>資料に基づき説明(略)</p>
<p>大原教育長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、まず市長のお考えをお聞きしたいと思います。</p>
<p>山下市長</p>	<p>部活動の地域移行・展開も、元々は教員の働き方改革からスタートしています。ほとんどの方が学校の思い出と部活動の思い出が必ずリンクしてるんです。それも文科省が切り離そうとするのなら、それはそれで我々が子どもたちの面倒を見るよって思っています。我々の本当の問題は教員の働き方改革云々よりも、資料にある部活動の人員の表を見ていただくと分かりますが、学校単位での部活動が成り立たない状況になっています。吹奏楽もそうですが1人とか2人とか、多いところでも17人や20人で足りていません。ブラスバンドってやっぱり30人、40人が音を出して楽しいと思います。今、実証実験で70人ぐらいで集まって練習していますが、こんなに大勢で音を出したことがないので子どもたちが喜んでですよ。子どもの夢を潰しているのは、実は学校だったり親だったり、大人だったりします。なので、そういうのを全部ひとまとめにしてやっていきたいと思いますというのですが、高松とか神戸だと、令和9年9月から一切学校の部活動を地域に任せますと言って切っちゃいます。都市部はクラブチームがいっぱいあるのでいいですが、三豊市で令和9年から部活は全部地域に任せますとなったら成立しないと思います。本当にカオスな世界だと思っていて、そこに子ども主体の目線ってあるのかなと思っています。そのため、今回の子どもたちの放課後改革でやっているのは、やりたいことがやれる環境を作っていきましょう。それは1人でも2人でもいいんですよ。これやりたいっていう子がいれば、そこにちゃんとやってあげられる環境を作ってあげるのが行政の役割であって、大人の役割かなと思っています。課題もありますが、先ほどのプラットフォームの基金について、今やっているのは、例えば3市が基金を作り自治体がお金を出すのではなく、民間からの投資を受けるようにします。例え</p>

<p>大原教育長</p>	<p>ば30億の基金を作って、その運用益を各自治体に分配しましょう。クーポンというのは、その運用益から出てきたお金を子どもたちに還元する仕組みにしています。三豊市だけの問題ではないので、地方に行けば行くほど学校の部活動は成立しておらず、でもやりたいことを募ってそれをどうにかできる環境を作ってくださいというのを全国規模で考えています。</p> <p>ありがとうございました。それでは委員の皆さんからご意見をお願いします。</p>
<p>金山委員</p>	<p>先ほど市長がおっしゃった吹奏楽のことですけど、実際子どもが入ってまして、昨日アンサンブルコンテストがあったばかりです。今年、クラブの「ハーモニック・ウィンズ三豊」というチーム名で初めて出場しました。子どもは去年から参加していて、この取り組みは今年で2年目ですね。だいぶ雰囲気慣れてきて、下の1年生が入学してきて上下の関係ですとか、和光中学校では少人数過ぎてできないことが、移行して下さったおかげで、ものすごく交流ですとか上下のつながりですとかを学んでいます。また、技術的な面でも退職した音楽の先生や、高校の音楽の先生が遠方から来て下さって指導してくださっているようで、少人数学校に在籍している生徒の保護者としては、とてもありがたいです。逆に市内の規模が大きい学校について、学校単体の時は強いと言いますか、とても上手で学校単位で上の賞を目指したりしているところが、少人数と一緒にやることと平日に集まってすることは難しいので、休日だけでやることで練習量も落ちてしまっています。昨日のコンテストの結果もそうですが、上手だった子達が結果に納得していないという逆の問題もたくさんあるのではないかなと思います。そこで一つちょっと聞きたいことがあります、1年間を振り返ってアンケート等は予定されていますか。</p>
<p>スポーツ振興課 高橋課長</p>	<p>去年も取ったと思いますが、実証事業に関するアンケートを取らせていただいて、皆さんの意見をまとめたいと思っています。</p>
<p>金山委員</p>	<p>去年も同じことを言ったと思いますが、移動手段について気になることがあります。私は幸い送迎はできるんですけど、人によると仕事の都合や祖父母がいないなどの理由から移動ができないという子がいます。本人は参加したいのにできない。それだったら私が一緒にその子を乗せていけばいいと言ったのですが、保護者はやっぱり他の家庭ということで遠慮されました。そのため、移動手段というのが大事なのではないかなと思います。</p>
<p>山下市長</p>	<p>これも本当は早く解決しなければいけないのですが、いろんなやり方はあ</p>

<p>金山委員</p>	<p>ると思います。スクールバスとかも選択肢としてはあります。部活動の地域移行を進めていく以上、移動手段の問題解決は絶対必要になってきます。</p> <p>金山委員がおっしゃったように、上手な子が他の子と一緒にすることによって人間形成とかそういった場面に役立つと思います。本来もっと上位に行けたと言う子どもはいないと思います。でも、やっぱり自分が思っていた以上の力が、団体なので出なかったという悔しさは残ると、その次にどうするかという考えに結び付けてもらえたら嬉しいです。</p> <p>素人的な考えになりますが、部活動があるということで中学校だけの枠にはなると思うのですが、せっかく地域移行しているので市全体で市内の学校全体で一緒になって活動するって言うんでしたら、先生同士も市内の中学校の先生同士で交流と言いますか、先ほど野田先生がおっしゃったように、クラブを通した交流もできるのではないかなと思います。</p>
<p>山下市長</p>	<p>できると思います。でも、このスタートが先生の働き方改革だと思っていたら逆行していて、部活動を見たくない先生がいるんですよ。ここがおかしいと思います。部活動は学校にくっついているものだと僕らは考えるじゃないですか。先生がやりたくないから切り離してあげようとしているのだから、部活動の地域移行を行政がやることに対して文句を言わないでほしいというのはあります。でも、おっしゃる通りで、さっきの実証事業のページについて吹奏楽部だったら、高瀬中 OB や詫間の吹奏楽部の人たちも一緒になって教えようという風になってきています。吹奏楽は大人も入って、大きい組織を目指しています。だから極端な話をしますと、小学生でも入れるような、やりたい子は入れるような環境を作っていこうと思います。柔道とかもそうですよね。小学生で柔道を習っている子がいて、放課後改革で地域移行したら、大人も高校生も中学生も、小学生と一緒に練習できる環境になります。だからそこに学校の先生に入ってきてほしいです。しかし、これは先生次第です。</p>
<p>大原教育長</p>	<p>難しいところですが、教員の中には部活動の指導者になりたくて教員になったという人もいますので、そういう方は兼職・兼業を届け出てもらっています。特に野球や吹奏楽など、それぞれを専門としてできる人は登録してくれています。</p>
<p>山下市長</p>	<p>野球は、県大会でベスト 4 までいきました。今まで試合に出られるか出られないかという子どもたちが県大会に出場してベスト 4 までいくってすごいですよ。やっぱり力を持っているんですよ。</p>

大原教育長	<p>私も野球の練習を何回か見に行ったんですけど、各学校で4、5人しかいない悲惨な状況で練習をしている時と、30人以上で練習しているのとは全然違います。費用とか送迎とかで保護者の方も不安だったと思うんですけど、専門の教員がちゃんと教えて一定の成果を出していけば、だいたいの意識が変わってくるんじゃないかなと思います。</p>
村上委員	<p>いろいろな取り組みをされて、形が出来てきているので、ぜひ進めたいと思いました。保護者の立場から意見が出ましたが、やりながら意見が言えるような場、子どもたちも意見が言えてそれを吸い上げていったりだとか、保護者も地域の方も意見が出せるような場があればいいと思います。ぜひ、やりながら課題を見つけて、それを変えていけるようにしていただきたいという風に思いました。地域移行している部活動の中で和太鼓とか人形浄瑠璃とかがとても興味深いです。こうした種目は、地域移行だからできることで、やりたい子どもがどれほどいるのか分かりませんがデータ分析をしてほしいと思います。逆なんですけども、パンフレットで何も参加しないというのがとても驚いていて、勉強とか目的をもって参加しない方がいいと思うんですよね。目的なしで参加しなくて SNS とかゲームとかの世界に入っていこうっていうのがだんだん増えてきます。これについては、学校の役割かなと思いますが、何も参加しないというのがとてもつらいですから、何かに所属して盛り上げていただきたいと思います。</p>
須山委員	<p>基金の運用益で補助するという制度について、金利が変動するので金利の状況によって想定予算が上手く確保できない場合が出てくると思います。そういった時に何らかの方法で寄付を直接当てるとか、そういう方法もあるかなと思います。</p>
山下市長	<p>正確に言うと運用益というのは、基金っていうイメージがその従来型のいわゆる貯蓄型の基金ではないです。どちらかというと、ファンドに近いイメージです。とはいえ、おっしゃる通りでファンド運用したとして5%の運用益と言っても、5%の運用益が出せるかどうかというのはその時その時で違うので、ご指摘の部分はまさにその通りです。その部分を本当にファンドマネージャーみたいな専門的な人間を付けるという風には考えています。できるだけ安定的に供給できるようにして行きたいと思います。通常の金利、0.0何パーセントの金利だと何百億いるか分からないですね。</p>
野田委員	<p>クラブ活動の地域移行ということは、他校の人とも地域の人とも関わるので人間形成においては非常に良いことだと思います。学校の中のある先生の指導方針のみしか聞かない子どもが育つわけではないので、本当に素晴らし</p>

いことです。昔の部活動では、対抗するみたいな関係だったのが、今はお互いに吸収しあう関係が素晴らしいことだと思います。三豊市の生徒だっという意識が一層高くなる、三豊市のことが好きになる生徒が増えるのではないのでしょうか。ただ先ほどから少し出ていますが、やっぱり、指導する場所がバラバラということが困難な要因だと思います。移動手段、先ほど市長さんがスクールバスもあるからと、ちらっとおっしゃいましたが、私も市役所にくるまで、そのことを考えていました。市がお願いをしているバスには通学バスで今現在財田と山本の小学校のバスが4台くらいありますかね。それから豊中幼稚園の通園バスもあると思います。また、豊中小学校が開校すると増えますね。そういうことを合わせると10台ぐらいの送迎用のバスがあることになります。コミュニティバスも定期的に動いている。より安全に生徒を送迎しないと、この部活動の地域移行が逆になるのではないかと心配しています。事故とか事件とかに巻き込まれたりする可能性があるんで、なるべく配慮していかないといけません。先ほど、金山委員がおっしゃったように保護者の送迎になると必ず先ほどのような事例が出てきます。1台に複数人乗って何かあった時に、誰がどういう責任を取るのかを考えないといけません。そのため、できるだけ私的な動きではなく、公的な動きができればいいと思います。ただ非常に近い距離、例えば自宅から学校ぐらいまでの距離で往復できるのなら自転車での移動も可能だと思いますが、タイムスケジュールを1年かけて考えていく必要があるかなと思いました。

大原教育長

場所も含めて、人の受け皿、移動の手段の確保というのが非常に大きな課題で、継続的に且つ計画的に進めてまいりたいと思います。いずれにしましても、意識改革が大きく関係してしまっていて、私の時代では部活動は学校であるのが当たり前というのがありましたが、確かに紐解いていくと、教員がなぜ部活動を見ていたのかと疑問に思います。この辺りを少し変えていくことと併せて、地域に根付いていくことや人材の問題もしっかりと対応して活動できるようにしたいです。また、費用負担も最低限に抑えることができ、移動も保護者に頼るのではなく何か負担軽減できるものに移行できるように考えていきたいと思っています。

それでは以上で協議事項2を終わらせていただきたいと思います。もし、その他何か本日協議した内容以外で協議とか調整を行いたいことはございますか。

熱心にご討議いただきましてありがとうございます。それでは、すべての議題が終了しましたので、これからの進行を事務局にお返しします。

進行

教育長ありがとうございました。それでは、閉会に移らせていただきます。閉会に際して山下市長より一言ご挨拶をお願いいたします。

山下市長	<p>本日は長時間に渡りありがとうございました。話せば話すほど、教育や学校が変革期に入っているのだなと感じました。ただ、先ほどから申していますように、大人の都合でどうこうと言うのではなく、子どもを中心に考えた時に何をすべきなのかっていう風になると答えは自ずと出てきますし、そんなに難しい話ではないんじゃないかなと思います。とはいえ、いろいろな方々が関わっているというのを感じましたので、今後も皆さまのお話を伺いながら、また議論しながら進めていけたらなと思っております。今後とも是非よろしく願いいたします。本当に今年も押し迫って参りましたので、次にお会いできるのは来年だと思いますが、皆様よいお年をお迎えください。ありがとうございました。</p>
進行	<p>ありがとうございました。以上をもちまして、令和7年度三豊市総合教育会議を終了させていただきます。長時間に渡りご協議いただきありがとうございました。</p>

三豊市総合教育会議規程第6条第3項の規定により、ここに署名する。

令和8年 2 月 20 日

三豊市長 山下 昭 史

三豊市教育長 大原 一 仁